Via Latina 22

2019年４月　279号

総本部よりのお知らせ－マリア会

総長評議員会のペルー地区訪問

ペルー地区の会員　総長評議員とともに

2月19日から3月12日にかけて、総長評議員会4名のメンバーがペルー地区を訪問しました。彼らはコロンビアのボゴタからそこの訪問を終えて一緒に到着しました。

ペルー地区は13名の修道者で構成されており、3つの共同体に分散しています。リマの共同体は、マリアニストがスタッフとして働いているマリア・レイナ小教区、および同じ名称の中学校と同じ敷地にあります。カヤオ市の近くにある共同体は、サン・アントニオ・マリアニスト中学校のキャンパスにあり、また贖い主の母マリア小教区でスタッフとして活動しています。国の北部に位置するトルヒーリョ市では、三つめの共同体が労働者聖ヨゼフ中学校のキャンパスで活動しています。これら3つの学校は、サンタマリア中学校とその黙想の家と共に、またリマにおいても、ペルーにおけるマリア会の長期にわたる活動でしたし、また教育におけるそのリーダーシップのために、全国的にマリア

ニストへの高評価を得てきました。

これらの教育活動に加えて、この地区はカヤオ、およびトルヒーリョの北へ2時間のところにある山間部の小都市オトゥスコでの数々の社会的活動を担っています。高い貧困率、暴力、また家族崩壊によって苦しんでいる町、カヤオでは、SM のThomas HelmセンターとAlbert Mitchel司牧センターが若者たちにオアシス（くつろぎの場)を提供し、またこれらのネガテイブな要素に取って代わるポジテイブな代替案を提供して、彼らの家族を支援しています。オトゥスコでは，この市を取り巻く高い山脈の中にたたずむ非常に興味のある働きが見られます。ラジオ・シャミナード（ChamiRadio）は250キロ以上の領域に人々を鼓舞する電波を届けています。またこのラジオ放送は、しばしば自分たちは孤立し搾取されていると思っている高い山脈の土着の人々に声を届けています。小さな科学者のグループであるAMASは、大採掘会社による汚染を見つけ告発出来るよう、土着の人々が自分たちの環境を測定するのを助けています。「良き助言者、聖母マリア司牧センター」はオトゥスコの中心部にあり、近隣地域の村人たちのための要理教育、支援、および暖かいもてなしのための中央本部として奉仕しています。これらすべての活動に加えて、リマ、カヤオそしてトルヒーリョの多様な信徒マリアニスト共同体の学生や大人たちがこれら村々に定期的に来て、自分たちが人々の信仰教育を行い、また自分たちの共同体において計画の立案を手伝っているように、言葉と行動で信仰を教える手助けをしています。

総長評議員とRalph Doorack師　ChamiRadioの放送準備

この地区にはほんのわずかな修道者しかいませんが、非常に大きな、奉献した信徒協力者のグループに恵まれています。この地区の事務所で働いている人たちから、学校の全教職員および社会奉仕活動を手助けしている人たちにいたるまで、私たちマリアニストの宣教活動における信徒の参与は全マリア会にとって模範となるものです。他の行政単位と同様、この地区にも課題があります。主な課題は修道者の高齢化と、新たらしい熱意ある修道者の召命がどうしても必要なことです。総長評議員会は、ペルーの会員たちの生活と宣教活動を分かち合い、またペルーの人々の霊的生活と文化に触れる機会を持てた事に深く感謝します。私たちは、新たな召命を送ってくださるよう、またこの国で既にマリアの使命にその生涯を捧げている人々を支えて下さるよう聖母マリアに祈りつつ、ペルー地区をマリアニスト家族全体の祈りに委ねます。

総長André Fétis師　オトゥスコ近くのシエラにある聖堂の外
最近、要理教育黙想会が行われたところ

教会法に従ったシャミナード国際神学校への訪問

3月15日から17日にかけて、トーゴ地区長でアフリカゾーン（CAM）議長のIgnace Pagnan師とマリア会総本部霊生局長、Pablo Rambaud師がVia Latina 22のシャミナード国際神学校の年次訪問を行いました。

この訪問中、彼らは養成チームと会い、彼らから全て必要な報告を受けました。また神学生全員とも会いました。そして神学生たちと典礼と食事を共にし、3月16日の夜は、打ち解けた共同体の集いの一時を神学生と共に過ごしました。

３月19日に、この二人はマリア会の拡大総長評議員会にこの訪問に関する報告を行いました。また彼らは神学校共同体と会って、この訪問から得た最も重要な洞察を述べました。

マリア会では、神学校の養成過程は非常に重要です。そのために、生活の全ての面が考慮されなければなりません：すなわち、祈り、養成、共同体生活、そして司牧活動です。神学生自身と同様、養成者はこの事実を自覚し、これら全ての分野が彼らの生活の中に重要なものとして留まるよう注意を払います。

私たちはLester Kaehler士について特別に述べなければなりません。先般のVia Latina 22で述べられているように、今年はLester士の神学校副校長としての奉仕の最終年に当たります。

IgnaceとPablo両師は神学校共同体から受けた歓迎に感謝していました。また彼らが訪問中に体験した隠し立てのないオープンな意見交換についても同様でした。

拡大総長評議員会会議（2019年3月19日～21日）

2019年3月19～21日、総長評議員会メンバーは各ゾーンの議長たちとローマに集まりました。

参加者は総長評議員に加え次の人々でした：
アフリカゾーン：Ignace Pagnan(トーゴ)、
アジアゾーン：Francis Chang(韓国)
ヨーロッパゾーン：Jean Marie Leclerc(フランス)、
北アメリカゾーン：Timothy Driscoll(メリバ)、
ラテンアメリカゾーン：Javier de Aguirre（アルゼンチン）－病気で欠席。

（これらゾーンの説明は国際名簿133－136ページにあります）

拡大総長評議員会は行政単位間およびゾーン間にある連帯の強化を考慮に入れています。またこの拡大総長評議員会は総長評議員会の活動を容易にします。ゾーンの各議長はゾーン全体の関心事を取り扱うので、拡大総長評議員会は集まった人々が直接的にマリア会全体の一致を受けとめるようにしてくれます。更に、これらの関心事は参加者たちが私たちの修道会全体に関わる問題を取り扱うようにしてくれます。

2015年の総指導者会議はゾーンをベースとした再構築の方法を提案しました。このような訳で、各ゾーンは新たらしい重要性を帯びるようになりました。今日、各ゾーンは行政単位間の協力の本質的なステップとなっています。

会議を通して、出席者は、特に2018年総会をどのように受けとめたか、また具体的にどのように適応したかについて情報交換を行いました。また、定款で定められているように、参加者は国際神学校への訪問に関する報告書を読みました。拡大総長評議員会はまた各行政単位の運営とその運営の改善方法について考察しました。彼らは、総会で呼びかけられたような、マリアニスト家族内の協力の経験について話をしました。最後に彼らは、各ゾーン会議の権限下、特にそのゾーンの議長の権限下にある「ゾーンマリアニスト研究センター」について意見を交換しました。この最後の2つのテーマはFMIの総長評議員会と合同で討議されました。これは、皆が彼らの意見を聞き、同時にこれらの分野でFMIとの協力を容易にすることができるためでした。

マリア会の中で増大している協力の必要性が、各ゾーン会議と拡大総長評議員会の役割を強めるよう要請しています。徐々に、このような会議はこの協力に前向きに貢献しています。

総本部財務委員会のメンバー
左より：Paul McDonald氏、Ron Overman士、
Jerome Balakiyéma士、Michael McAward士

総本部財務委員会、ローマでの会合

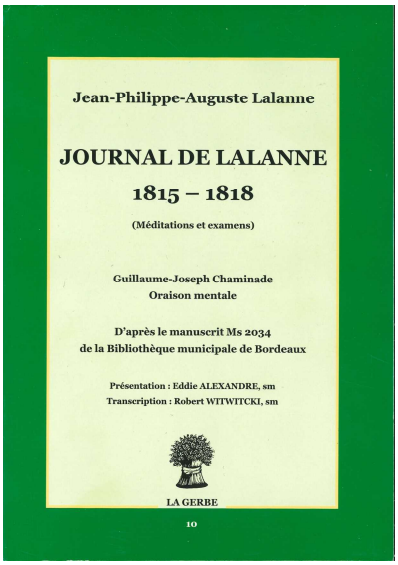
マリア会の全ての管区、地区のように総本部も財務分野での審査をしたり助言を行ったりする委員会を持っています。財務局長、Michael J. McAward士のリーダーシップの下にあるこの委員会は，少なくとも年一回の会議を行い、また年間を通して、必要に応じて他の時でも、連絡を取り合っています。今年、委員会は2019年3月22日～23日にローマで会議を行いました。慣例の総本部の投資状況，並びに総本部の財務運営に加えて、今年、委員会は昨年の第35回総会で財務部に与えられた方向性について焦点を当てました。

委員会は次の4名のメンバーで構成されています。総本部のMichael McAward士、アメリカ管区のRonald Overman士 、ニューヨークから財務専門家のPaul McDonald氏、トーゴ地区のJerome Bala-

kiyéma士。シャミナード財団によって雇われている投資会社の責任者であるRon Kern氏もこの会議の一部に出席しました。

Michael士は会議終了にあたり次のように表明しました：年間を通しての継続的な助言と同様、この顔と顔を合わせた会議の間の委員会の助言と意見は、自分にとって“大きな支え”であり、また、“世界中で行われているマリア会の宣教活動、特に修道者の養成、および貧困者と見捨てられた人への社会的支援に寄与する活動を支えるマリア会の能力を維持するよう助ける上で、大きな助け”です。

若きLalanneの霊的日記　(1815年−1818年)



ボルドー市立図書館に秘められていた未発表の文書の束が若きLalanneの日誌であることが判明しました。

Eddie Alexandre師の注意深い観察の下に、またRobert Witwicki師の忍耐のお蔭で、この未発表の文書は書き写され、展示され、そして出版されました。今、各行政単位はこの仕事のコピーを受け取りました。

最初、これは非常に真面目な文書であるように見えます。なぜならこれは霊的生活の異なるテーマについての非常に簡潔な覚書だからです。とはいえ、この文書は大変重要なものです。これは私たちの修道会の初期の主要な参加者であったLalanneの内的生活を私たちに知らせてくれます。彼は、マリア会創設の計画と実際の創立に関わった最初の数か月間に亘ってこれらの覚書を書きました。ちなみに、これらの計画や実際の創立への直接的な言及は非常に珍しいとの指摘は驚くべきことです。

私たちは、この文書の編集の難しさと未来の司祭であるLalanne師の判読しにくい文字にもめげず編纂に努めこの素晴らしい刊行物（*La Gerbe*収集No10）の製作者たちに感謝します。

各行政単位は、この著作品を受け取った後、更に必要な部数は総本部に注文してください。

Michel Quirogaの列聖調査開始の請願書

列聖請願総代理、Antonio Gascón師はMiguel Angel Quiroga（“Michel”）の列聖調査開始をJuan Carlos Barreto司教に要請するためコロンビアのキブドに赴きました。Gascon師はこの申請の理由をMichelが英雄的な愛の行為で自分の生命を神に捧げたそのやり方に置きました。３月4日月曜日、Gascón師はマリア会コロンビア・エクアドル地区長、Carlos Julio Barragán師を伴い、司教館の事務所でBarreto司教に迎えられました。Gascón師は列聖調査開始のため“請願書”（*Supplex Libellus*）を司教に手渡しました。この請願書と共に、彼は総本部の文書局に保管されていたMichelに関する資料

と、スペイン管区とコロンビア・エクアドル地区に保管されていた資料を司教に手渡しました。これから、証人に質問する教区審査を開始するのはBarreto司教次第です。

調査開始の嘆願書（*Supplex Libellus*）提出
左より：列聖請願総代理のAntonio Gascón師、Barreto司教、
コロンビア・エクアドル地区長のCarlos Julio Barragán師

私たちはMichelが1998年9月18日、25才の時、リョロで農民グループの生命を守ろうとして、民兵組織のパトロール隊に殺害されたのを覚えています。Michelは有期誓願者の若き修道者で、リョロ町の無原罪の御宿り教会の近くにあるマリアニスト共同体に配属されていました。彼は熱烈な霊的生活の修道者でした。彼はクリエイティブな若者でした。Michelは青年たちのキリスト教的教育と貧しい人々の社会的必要のために強い使徒的熱意を持って活動しました。彼は自分の召命と修道的奉献を高く評価していました。彼はキリストと聖母マリアに対して大きな愛を抱いていました。私たちの祈りをもって、マリア会の新たな列聖調査が良い結果をもたらすよう希望しましょう。

Domingo Lázaro師の*Positio*

親愛なる兄弟の皆様：4月16日、聖週間の火曜日、列聖省の枢機卿と司教の通常の会議で、マリア会Domingo Lázaro師の生涯の聖性と徳に関するPositioが審議されます。この意向のために、もし神のご意志であるなら、私たちの親愛なるDomingo師が肯定的な得票を受け、“尊者”と宣言されるよう、マリアニスト列聖請願総代理は皆様に祈りをお願いしています。

最近の総本部通信

- 訃　報：11号～13号

総本部日程

- ４月２３日～５月８日：総長評議員会全員アルゼンチン地区訪問

アドレス変更

- Bro. Kenneth Thompson (US): thompsonkh987@gmail.com

2019年の復活の祭日に、Via Latina 22はその読者に、復活なさった主が世界中のすべての人々に平和をもたらしてくださるようにとの祈りを込めて、私たちの最も暖かい挨拶を送ります。